

2023 年度項目別の自己評価表

YMCA 健康福祉専門学校

1. 学校の教育目標

横浜 YMCA はキリスト教団体として、イエス・キリストの生き方にもとづき、人間性が尊ばれ、平和で公正な世界の実現をめざし、「横浜 YMCA—私たちの使命—」を制定しました。YMCA 健康福祉専門学校においても、「横浜 YMCA—私たちの使命—」の実現に向けた取り組みを展開します。職能教育機関として互いに育ち合う環境を提供し、豊かな人間性と専門性を身につけ、広く地域に貢献できる人材を育みたいと思います。そして、使命に基づき平和の実現を願い、福祉社会形成のよき担い手を育成したいと願っています。

1. 自己学習能力を身につけた人材を育成します

私たちは、学習の場から体験学習を通じて生きる力を学び取っていきます。本校においては、知的な情報収集にとどまることなく、実習、演習などを通じて職業現場から実践的に学習することを大切にしています。また、常に変動していく社会の中で、変化の方向を読みとりながら適切に判断し行動することは各自の学習能力にゆだねられています。常に学ぶ姿勢を忘れずに向上心、研究心をもって謙虚に学ぶことで、自らを高めていきましょう。

2. 人間関係を豊かにする力を身につけます

人は、複数の人間との関係の中で初めて人となります。人は平和的な人とのかかわりを通してお互いに成長していきます。本当の人間的交わりを体験する機会が少なくなりつつあると言われる現代社会において、職業現場を意識した実習やボランティア活動を通して、コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係形成能力を身につけましょう。

3. サービス提供者にふさわしい社会的な行動様式を身につけます

社会において、常に相手の立場に立ち、考え、行動できることは大切です。サービス提供者としてふさわしい社会的な行動様式、あいさつの励行や、時間・提出期限の厳守などを、学生生活や現場実習を通して身につけていきます。

4. リーダーシップを発揮できる人材を目指します

リーダーシップとは、集団に対して、作用を及ぼす力、指導力、統率力を指します。最近、多様なニーズをもった利用者や専門職の人びとへの円滑なコーディネーター（連絡調整）の能力もった人材が求められています。学年を越えた学生同士の直接的なかかわりを通して、積極的な自分の意見を発言できることを目指します。

5. ボランティア精神を理解し、積極的に参加します

ボランティア活動を通して「ともに生きる」ことの喜びと難しさを体験することを大切にしています。「家族」と「学校」という生活の軸に、「地域」が加わることにより、さらに自己成長の可能性が広がります。ボランティア活動をするとは、「地域（の人びと）」とかかわりをもつということです。「自ら」「持てる力で」「続けて」ボランティア活動をすることによって、多くのことを学びます。

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

今年度も安定した運営状況を目指し、新入生の目標数確保及び学費滞納率の低下を目標とします。また、多様化する学生の就学支援に各種専門機関等と連携して取り組みます。

学生募集にあたっては、これまでどおり広報費用をあげることなく各種媒体業者との交渉を行い、高校生や高校教員へ学校案内を行う方法を継続します。全国的にも希望者の減少が課題となっている福祉分野では、高校内で行われる進路ガイダンスでも直接接触は限られています。学校の広報活動としては、最も有効となる Web での情報提供に心がけ、自校 Web サイトはもちろん、広報媒体のサイトを上手に活用するほか、SNS を利用した高校生にとって興味関心の持てる情報提供も積極的に実施します。希望者が有効だったと思える情報を提供できるように、そして丁寧な対応ができるように工夫します。また高校生の意思決定に影響の大きい保護者を対象として、広報活動の一環とした教育セミナーなどの開催を企画します。

学費納入については昨今の経済状況から奨学金制度利用者が増加している背景を鑑み、学生一人ひとりの状況に合わせた納入計画を、学校側も個別に管理し、延滞のないようなくみ作りに取り組みます。何よりも学生自身が安心して就学できる体制づくりを確立します。

今年度も継続して、学習に不安のある学生へきめ細やかに対応できるよう取り組みます。学生一人ひとりの課題(基礎学力不足、学習経験の不足、学習障害など)を早期に明確にし、クラス担任による定期面談のほか、専門職によるカウンセリングなども取り入れ、多様化した課題を正しく把握するとともに、家庭と、必要に応じた専門機関との連携を持った就学支援を行います。

介護福祉科では、国家資格取得に見合う知識技術レベルを教授すべく、模擬試験や国家試験対策の授業を充実させます。また基準点を満たすことのできない学生に対しては個別にフォローアップを行い、合格水準まで引き上げることを目指します。また今後増加すると思われる介護福祉科での外国人留学生の受け入れについては、日本語学科と連携しながら日本語学習の時間を組みこむほか、地域施設へのニーズ調査などをおして、実習、インターンシップ、就労など段階的にサポートできるよう、そしてなにより留学生も安心して学習できるよう、連携先の発掘と仕組みづくりに取り組みます。